

飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

新しい世界へ
一步 (ippo) 踏み出そう！

多文化共生交流会 ippo to the world



▲神岡のアメリカンベーカリーでのライブ



▲初回はGoogle Earthで現地の様子を共有



▲食をテーマにお料理会も開催♪

「多文化共生」という言葉を最近よく聞くようになってきました。飛騨地域にも観光客だけではなく、外国人人口が増えてきているのはご存じでしょうか。昨年の調査では飛騨市には184人の外国籍の方が住んでいます。今回は外国人と地域の人を繋ぐ活動を始められた「多文化共生交流会 ippo to the world」代表の高知尾瞳さんにお話を伺いました。

活動のきっかけは、地域の事業所で外国人労働者の受け入れをしている方の言葉からだったそうです。「外国の方が増えてきたけど、コロナもあって地域の人と関わる機会がない。職場だけの毎日は寂しいんじゃないか。」2023年1月に飛騨市に移住された高知尾さんは日本語教師の資格を取得しており、留学の経験などから多文化共生活動に興味があったため、ご主人と地域の方と一緒に活動をスタートしました。

初めてのイベントは、2023年の3月でした。地域の方に声をかけ、インドネシアから来られた方にインドネシアの料理と街、お祭りなどを紹介してもらいました。「食は誰にとって身近で、興味を持ってもらいやすいと思いテーマにしました。また、一方通行の会にならないよう、地元の方には神岡を紹介してもらいました。」神岡で開催したこのイベントは、他にもベトナムやカンボジアの方も参加し、30人ほどが集まりました。その後も食をテーマにした会を開き、参加者もネパール、フィリピン、アメリカと広がっていきました。7月に

は実際にインドネシア料理を作る会を開催し、飛騨の食材を使ってインドネシア料理を作りました。

イベントだけではなく、この活動が日常に繋がってほしいと、週に1回神岡町公民館で、誰でも気軽に立ち寄れるラウンジも開催しています。「外国人も日本人も、やりたいと思ったことをサポートするような活動ができれば」がコンセプトで、「歌を歌いたい」というインドネシアの方の思いから楽器ができる人に声をかけ、みんなで練習をして地域の納涼祭で披露したり、「古い着物をもらってくれる人はいないか」という地域の方の声から、着物を集め、欲しいという外国人の方をつなげ、着付けをしてくれる方、お茶の先生に声をかけ、茶道体験を行ったことも。外国人の方からは「飛騨の生活が楽しい」「寂しくない」という声があり、地元の方からは「外国の方に日本の文化を体験してもらえて嬉しい」という声が聞こえ、活動の幅は広がっています。

「最初のイベントから多くの方に参加していただいて、飛騨の方々の柔軟性を感じています。多文化共生が日常になってくれたらと思って活動していますが、外国人、日本人、それぞれの困りごともあると思うので、相互理解の橋渡し役としてサポートしていけたら嬉しいです。」と語ってくださった高知尾さん。今後は古川などでもイベントをする予定があるので、ぜひ気軽に参加してみてくださいね。

基本情報

設立時期：2023年3月
活動地域：飛騨地域
活動内容：
多文化共生のためのイベント開催や、
毎週金曜日の定例ラウンジ開催など。

▼着物で茶道体験！地域の方と楽しみました



▼最新情報はこちらから



▲神岡のトンビのシルエットから作ったロゴ

飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>

